



# NPO通信

## NPO総会報告

平成24年度のNPO総会は5月22日開催されました。平成23年度活動報告と24年度の課題に関して水流副理事長から報告された後、下記の議案に関して審議され、ご承認いただきました。

- (1) 平成23年度事業報告(案)について
- (2) 平成23年度決算報告(案)について
- (3) 監査報告について
- (4) 平成24年度事業計画(案)について
- (5) 平成24年度収支予算(案)及び入会金・会費(案)について
- (6) 次期役員を選任(案)について

議案書はNPO事務局(プラザ3階)に常備してありますのでご覧下さい。特に報告事項の「平成23年度活動報告と24年度の課題」にはNPOが23年度に中期経営計画に基づき何を実施してきたか、**24年度の課題は何かを詳記してありますのでお読みの上ご意見下さい。**

### 平成24年度役員(敬称略)

**理事:** 藤嶋 昭(理事長)、 稲田 素子(新任)、 折居 晃一、 木村 ますみ、  
 倉本 明(新任)、 眞田 強、 菅沼 俱万、 関 智義(新任)、  
 千田 智子、 高橋 邦晴、 高橋 富夫、 水流 哲郎、  
 富本 直一(新任)、 畑 英子(新任)、 守田 啓子(新任)

**監事:** 佐野 利勝、 田辺 初子

理事会は総会決定事項の執行とその他経営実務を担っています。具体的には

- (1) 講座・ワークショップと地域協働講座の担当役員(2012年度前期26講座、13ワークショップ、2短期集中講座、5地域協働講座)
- (2) 各種委員会への参加(企画・運営委員会、カリキュラム企画・編成委員会、地域協働講座検討委員会、運営協議会、三者会議、学長推薦委員会・・・)
- (3) 総務、事業推進、広報業務の主導
- (4) 催事の主催(フェスタ、受講生のつどい、開講式、特別講座、公開講座)

NPO設立時から5年経過し、役員の世界交代を進めています。理念の共有や業務のスムーズな引継ぎのために新旧理事が協働して業務を担当していきます。

また、現役員は座学の経験者が多く、野外学習のある講座の運営等には不慣れな部分があります。総合的にバランスのとれた運営をする為にも野外学習の経験者等の参加が必要です。この方面に活動されている方々の積極的な参加をお願い致します。

### 退任役員

下記の理事が退任されました。ご苦勞様でした。今後もNPOをサポート下さい。

市川 邦彦、 乾 新四郎、 古沢 健、 白山 俊介、 関根 暁子

## 講座・ワークショップ紹介 第7弾！！

### 楽しい臨海実習（いのちの科学ワークショップ）

「いのちの科学ワークショップ」では希望者が館山の「お茶の水女子大学 湾岸生物教育センター」でウニの受精観察を行いました。

**日時：4月25日（水）～26日（木）**

**場所：お茶の水女子大学 湾岸生物教育センター（千葉県館山市）**

**講師：お茶の水女子大学 清本 正人（准教授）先生**

実習内容：

- 1日目：①ウニの受精（講義と実習：採卵、受精、卵割を顕微鏡を覗きながら観察）  
②夕食後、実験用生物の採取と海ほたるの観察
- 2日目：①ウニの発生（幼生を顕微鏡を覗きながら観察）  
②干潮時、磯での生物観察

ウニは雌雄異体です。メスは卵子を体外に、雄も精子を体外に出して体外受精するために、発生の様子が観察しやすい生物です。清本先生の指導の下に、ウニの卵子に精子をふりかけ、顕微鏡で観察してみると精子が卵子の中に入ってゆく様子が手に取るように解ります。いのちの始まりを話だけでなく、発生の現場で各種の顕微鏡を操作しながら観察すると、わくわくした感動が得られます。まず卵子に精子が受精すると受精膜が現れます。1時間もすれば卵は2分割され、続いて4分割、8分割期を経て桑の実の様な桑実期を迎えます。数時間のうちに次々と形を変えてゆく細胞の姿を見ているといのちの精妙さが実感されてきます。

夕食後は海岸に行き、実験用生物の採取と海ほたるの観察をしました。海ほたるは肉食性の甲殻類の一種で、ストレスを受けると発光するのだそうです。餌でおびき寄せた海ほたるが光るのを観察できました。4月はまだ時期にならず見られませんでした。8月ごろには海面が海ほたるの発光で青く輝くそうです。夜はお酒を飲みながら歓談しました。

2日目の朝食後再びウニの姿を観察しました。形は前日とは大幅に異なりプリズム幼生やプルテウム幼生に替わっていました。「え、昨日の卵がこんなにも早く姿が変わるんだ」とびっくりしました。先生からは発生過程を詳しく説明していただきました。午後からはウエットスーツに着替えて磯の生物観察をしました。

「湾岸生物教育センター」は研究と教育を兼ねた施設で、学生だけでなく理科教員や一般市民の実習も受け入れてくれます。宿舎はたたみの部屋と2段ベッドの洋室に分かれています。風呂の設備もそなわっています。宿泊費は3食付で4千円程度でした。新しい体験に満ちた充実した2日間でした。

写真左上：ウニの  
桑実胚

写真左下：ウニの  
赤ちゃん

写真右：実習風景



## 音楽Ⅰ講座 「音楽と数 —室内楽で見る、音楽と数の神秘」

講師：音楽評論家 丹羽正明

日時：月曜日 午後1:30分～ ◇高津市民館大会議室

先生は、東大在学中から新聞に音楽批評を執筆され、音楽評論家の草分け的存在。昨年まで10年間、栃木県の「那須野が原ハーモニー・ホール」の館長として、室内楽のコーディネーターもされました。日本では音楽会の回数で見ても、オーケストラ、ピアノが圧倒的なシェアですが、「室内楽は音楽鑑賞の基本。1年かけて室内楽の楽しみ方を知ってほしい。」ということで、今期は、1～9、ソロ～9重奏まで、数と音楽の関係を深いかかわりを考えながら、室内楽の名曲を鑑賞していきます。音楽の基礎理論の解りやすい解説も、ユーモアたっぷりに織り込まれ、「オーケストラが2管編成から3管編成に拡大するとパート内で完全な和音を響かせられる・・・」などとても勉強になります。

音楽講座Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、後期(10月)から次のように衣替えの予定です。今後は曜日、時間を固定します。ご期待ください。

・日本の古典芸能 (月曜日午後、高津市民館・大会議室)

「日本の楽器を知る」映像と実技を交え伝統芸能の楽しみ方を考えます。

講師：洗足学園音楽大学 現代邦楽研究所副所長 森重行敏

・音楽Ⅰ「映像でモーツァルトの名曲・名演を聴く—声学篇—」(木曜日午前、新百合21)

講師：日本モーツァルト研究所所長 海老沢敏

・音楽Ⅱ「室内楽の楽しみ ～“極め付き”室内楽名曲案内」(木曜日午後、新百合21)

講師：音楽評論家 丹羽正明

## 芸術 ワークショップ「油絵を描く 技法を基本から学ぶ」

講師：東京藝術大学教授 佐藤 一郎 ほか

日時：水曜日午後6:00 ◇生涯学習プラザ

水曜の夕方、大きな荷物を抱えた善男善女がプラザに入ってきます。よく見ると、男性は殆どが年寄りで風体も様々です。一方、女性は女学生風の方から主婦層まで年齢に幅があります。

**この集団は一体何なのでしょう？** 驚くなかれ、油絵を描くアーティストなのです。但しこの芸術家、本物はほんのわずかです。なかには、筆を握るのは中学卒業以来初めてという方もおられます。「油絵具はどこで売っているのでしょうか？」と質問をされる方もいます。

そうです、この講座は「芸術」です。定員30名と少なく、常に抽選となり、悔し涙を流す方が每期10名以上は出る大変に狭き門の講座です。地下で且つ夕方6時から8時半迄やっており、ご存じない方が多いと思います。

**地下でそれも夜に何をやっているのか？** 講師の指導のもと、静物(果物、花、陶器等)人物(女性モデル・・・念の為裸婦ではありません)を描きます。

1回2時間半はなかなか骨が折れますが、欠席者は殆どいなく全員私語も交わさず黙々とキャンバスと格闘しています。そして最終回は、大変辛辣な講師の講評を受ける地獄が待っています。

**夜間、地獄が待つ講座がどうして毎回抽選となる人気講座なのでしょう？** 紹介が最後となってしまいましたが、講師が素晴らしいからです。現役東京藝術大学教授の佐藤一郎先生と同じ藝大卒の奥様の佐藤道子先生です。講師のエピソードと受講生仲間の楽しい交友の紹介は別の機会に譲るとして、この講座の隆盛はまだまだ続きそうです。

## 国際関係 講座「日露関係を歴史的に考える」

### WS「シベリア抑留問題を考える」

講師：成蹊大学教授 富田 武  
日時：月曜日 講座 午後1:00～ WS 午後3:00～  
場所：生涯学習プラザ

世界各国や各地域の近現代史や現在の政治、経済、社会の状況や問題点などに理解を深めていくことが目的のコースです。講座とワークショップは同じ先生に同じテーマについてやっていただいています。両方受講することにより一つのテーマに深く集中できるので理解が深まります。コーディネーターは成蹊大学の遠藤誠治先生で毎期のテーマが偏らないよう幅広い分野を選んでいただいています。このため受講生はテーマにより每期1/3ほど入れ替わります。

2012年前期は日露および日ソ関係を学んでいます。これまでには中国の対外関係の近現代史、朝鮮半島の現代史、EUの現状と将来展望、アフリカの社会と政治経済、現代インドの状況など多岐にわたります。また国や地域にこだわらず例えば途上国の公害などに対する先進国企業の社会的責任、核兵器問題、政治思想史などもありました。

2012年後期は講座、ワークショップとも日本女子大学の臼杵陽先生（中東学会の会長）の「中東政治におけるアラブ革命」（最近のチュニジア、エジプトなどの「アラブの春」がテーマです。

#### **【講座について】**

中国問題や朝鮮問題について、私たちは新聞などにより日常的に情報を得ていますからある程度土地感のようなものがありますが、アフリカ問題やインドなどのテーマでは予備知識が無く実感が湧かないのが普通です。このような場合は講師の先生も心得ていて毎回のようビデオを短時間見せてくれます。海外の放送局の作ったものや先生自身が取材したものなどです。映像で見ると実感が得られます。またビデオの主題以外に背景の映像などを見てビデオ製作者の意図しない点にも理解が深まったりします。

#### **【ワークショップについて】**

講座と同じテーマについて輪読形式で行います。先生が複数の本や論文から必要部分を選び受講生が要約と自分で調べた補足や、感想、疑問点、意見などを発表して討論します。受講生には海外で仕事をしてきた人も多く先生とは異なる見方をする人もいます。受講生同士を含めて言いたい放題になります。例えば中国がテーマの時は中国崩壊論、EUがテーマの時はEU崩壊論を主張する人もいます。このような受講生の勝手な意見を聞くのが面白いと言って参加する人もいます。每期講師にたいする謝恩会と称して飲み会をやっていますが女性の参加者も多く賑やかです。また頻繁に受講生仲間での飲み会もやっており楽しい集まりになっています。

#### **『編集後記』 物思へば沢の蛍もわが身より あくがれいづる魂かとぞ見る**

蛍が飛び交う季節を迎えました。NPO総会の承認を受け、新役員が選任されました。新旧の交代時期にさしかかりましたが、組織的運営によりアカデミーの継続に努めていきます。引き続き受講生の皆様のご支援をお願いします。

編集責任者：折居 晃一、田辺 初子、 眞田 強、 原 宏